

令和５年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標 めざす生徒像		(1)幅広い教養を身に着け、確かな知識と技能の習得を目指し、真理の探究に積極的な意欲を持つ人間の育成	達成度	A	達成
		(2)責任感と正義感に富み、規律ある行動のできる人間の育成		B	概ね達成
		(3)個性の発見と伸長に努め、主体的に進路を決定する能力を持つ人間の育成		C	やや不十分
		(4)健康で明るく、情操豊かで創造力に富む人間の育成		D	不十分
具体的目標 重点目標		(1)「千年桜計画」の推進（『環境教育』『公共性教育』『安全教育』の三本柱で、主体的に生き抜く力を育てる） (2) 魅力ある総合学科教育に向けた取組 (3)これから生きる力の習得 (4) 心に響く生徒指導の充実 (5) 道徳教育の更なる充実 (6) 進路指導の更なる充実 (7) 開かれた学校づくりの推進			
自 己 評 価					学校関係者 評 価
分野	評価項目	主な取組み・達成状況	達成度		
学校運営	本校の教育環境	○生徒数減少に伴う教員数の削減があったが、職員全体が協力しながら業務に取り組み、丁寧な指導を行うことができた。また、地元の行事への積極的な参加を行うなど、生徒自らが達成感を持つことができる学校行事や生徒会活動の充実に努め、生徒・保護者の満足度を上げることができた。 ○地域考究の授業をはじめ、ジモト大学の参加、やまがたA I 部の活動、ボランティア活動など地域と関わって協働活動を実施することができた。また地元中学校との連携を密にし、中高の生徒の交流を行うなど、学校の魅力を外部に発信する活動を継続した。	B	B	
	本校教員の熱心度		B		
	本校教育への満足度		B		
	地域への貢献度		B		
学習指導	授業のわかりやすさ	○基礎学力と学習習慣の定着を目指すとともに、体験活動も取り入れ、総合学科の特色を生かすことができた。一人一台タブレットの導入によりI C T機器を活用した授業が積極的に行われた。また、支援が必要な生徒に対しての授業対応等の授業研究に加え、中学校の教員を対象とした公開授業も行った。 ○学校設定科目「考究実践」では、設定したテーマに沿った探究活動を、地域自治体の多大な協力を得て実践した。コミュニティスクールの体制を活用し、例年以上に地域と協働した探究活動を展開し、多くの来賓・行政関係者等の方々を招いた探究活動発表会を成功させた。	B	A	
	成績評価の適切度		B		
	学校設定教科「地域考究」における探究学習の充実度		A		
生活指導	規律の順守	○登校時の生徒会執行部のあいさつ運動や、地域の方と協働した登校時の指導などを継続して行った。また、行事等の際の、身だしなみ指導において全職員が指導の目線を合わせて一斉指導を行った。 ○いじめや問題行動の未然防止や早期発見のために日頃から丁寧に生徒を観察し、年次と連携をとり、情報を共有するように努めた。	B	A	
	生活指導の徹底度		B		
	生徒の理解度		A		
進路指導	進路指導の充実度	○2年次インターンシップ事業、1～3年次による外部講師による講話を実現し、生徒たちに段階的に将来の生き方や職業観を考える種まきができた。各種講話や進路別集会等は、行政、企業の地域人材派遣等の協力を得て実施することができた。進路情報や各年次の進路行事を課通信やHPを通じて発信した。 ○総合的な探究の時間の実施方法については各年次と連携を密にし、アイデアを出し合い工夫しながら進めることができた。	B	B	
	進路情報の伝達		B		
	進路目標達成度		B		
部活動等	指導体制の充実度・実績	○部活動指導員の配置により、顧問のサポート体制をつくった。部活動再編、部活動加入の在り方について検討を行い、方針を決定した。 ○学校行事においては、少ない生徒数ではあるが、全員の生徒が参加し、達成感を持つことができるよう、生徒自らが発案、工夫した内容を取り入れるなどし、満足度の高い行事をおこなった。また、地域の伝統行事や清掃活動など、地元の市町と連携する活動も多く取り入れ、満足できる活動をおこなうことができた。	C	B	
	学校行事		B		
P T A 等	学校情報の周知度	○「さくら連絡網」を活用し、学校と保護者が双方向で連絡を取る体制を継続した。また、学校ホームページで、生徒の活動の様子を定期的に発信し、学校情報の周知につとめた。今後、地域・地元中学校への情報提供を密にし、学校の活動をアピールする体制を強化していく。 ○PTA活動では、学園祭への参加・街頭指導などを行うとともに、「花のかけはし運動」は親子地域貢献活動として6月・10月の2回参加した。 ○生徒の健康管理については、引き続き感染症の流行を防ぐ取組みに努め、自らの健康の維持と増進について意識させた。	B	B	
	P T A活動		B		
	清掃活動の徹底度		C		
	生徒の健康管理		B		
総括	○地域（尾花沢市・大石田町）と連携した協働活動に力を入れてきた。学校設定教科「地域考究」、そばガールズの活動、ボランティア活動、ジモト大学への参加、A I 甲子園への参加、4年ぶりの尾花沢まつりへの参加など、地域の方と生徒が協働して1年間の活動を行ってきた。地元中学校との連携活動も本格的に始まり、中高の生徒会交流も実施した。2年目のコミュニティ・スクールの運営において、地域との連携を一層深め、生徒の探究活動や自律的・自発的な活動を支援していきたい。 ○学習・生徒会の活動や部活動では少人数だからできることを工夫しながら実施することができた。その中で生徒の個性を活かし、自信につながる指導を心掛けた。保護者とのつながりを一層大切に、チームとして生徒を育てる学校づくりを継続する。次年度は、学校運営協議会委員のご意見を踏まえ、地域への学校活動のPR強化について、重点として取り組んでいきたい。				